

研究者情報

フリガナ 氏名	コバヤシ ゴウ 小林 豪	職名/学位	教授/博士(海事科学)
所属 学科	商船学科	所属学会	日本航海学会
専門 分野	・海上交通法規 ・海難防止論	利用可能な 設備等	海難審判裁決録

研究テーマ

船舶をとりまく環境変化と現状法規の改善策に関する研究

各種海難の実態解明に関する研究

【概要】

四方を海に囲まれた我国では、海運業、水産業等は、我々の生活と密接な関係があるため、海難は大きな問題となる。現在、日本は輸出入の99.8%を外航海運に頼り、また、国内輸送の約4割を海上輸送に依存している。

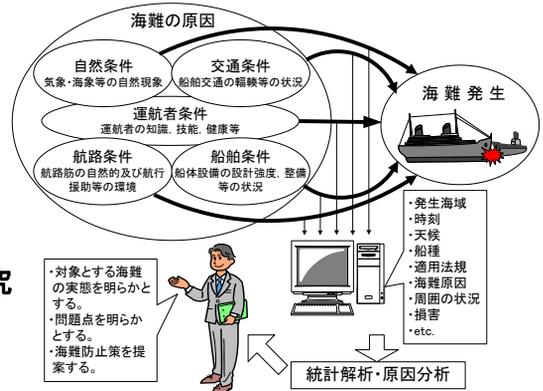
海難は、我国にとって大きな問題であり、海上交通の安全確保、海難の防止は、きわめて重要である。この海難事故減少を目的として、様々な観点から、過去の実態をデータベース化し、海難に至る要因について、調査・研究を行っている。

海難の発生は、海上交通の特殊性からして、単一要因で発生することは少なく、多くの場合、種々の要因が重なり合い発生する。

直接的な海難原因とともに、その背景となった様々な海難要因を詳細に検討する必要がある。

これまでの調査内容

- ・港則法第14条第1項に関連した衝突海難の研究
- ・現行雑種船の航法における諸問題とその改善に関する研究
- ・予防法第39条適用海難における避航義務に関する研究
- ・水先人海難の現状と防止策に関する研究
- ・船舶の大型化に伴う海難防止策に関する研究 等



本研究の成果

A study on Marine Collisions where a Pilot was Involved

本研究は、過去約30年間に水先人が受審人又は指定海難関係人として裁決された衝突事件を調査対象海難とし、海難要因となる各種項目を抽出しデータベース化して統計解析を行った。また、水先人に対するアンケート及びヒアリング調査、水先人教育現場視察等を実施した。

調査結果から、水先人海難における主な原因は人為的なミスにより生じており、その中でも慣れによる過信や思い込み、あるいはコミュニケーション不足による情報交換不十分がきっかけとなり、事故が引き起こされていることが明確になった。



<http://www.mlit.go.jp/maritime>

提供可能な連携

技術相談	共同研究	受託研究	施設利用	機器利用
可	可	可	可	可